



ネパール・ミカの会

令和4年4月25日発行 194-0035 東京都町田市忠生 2-5-36 tel042-791-0602



「3回目のワクチン接種を終えて」

理事長 齋藤 謹也

我が身の老化を嘆きつつ、若き新人の登場参加を待ち望む日々でしたが、そろそろ私たち自信「みずから」清新な心を取り戻しできることをやりましょう。

もう役目が終わったとしてつい解散のことを考えてしまいがちになった私達ですが、ネパールの子供たちを「心配して」心を寄せることも一つの役目と考えていきたいものです。当面、動かないでもできる事業は無いかと考えました。

初心に戻って、勉強できるようサポートを再びしましょう。子供たちは日々成長しています。20年前の子供たちはもう大人となって、地域を支える人になっています。

もう1度ノート、鉛筆など文房具贈呈からやり直しても良いではありませんか。我々自身が動かずとも、成長している青少年の輝くひとみに応えましょう。

私たちは初心のひとみに魅せられて動き始めました。そこに常に帰りながら一つの花を咲かせましょう。私たちが子供たちから元気ややる気を与えてもらって過ごしていたのです。

ウイズ・コロナの時代にあっても一喜一憂することなく何かできることが無いか。

他の団体の機関紙を見ると、生活支援（アジアの子供食堂の開催）米、乾麺、しょうゆ、砂糖などの配布。「きれいな水で乾杯を」井戸の掘削。ほほえみ図書館。日本在住者向けにマスク 3000 枚。ストラップの現地作成購入販売。教育支援事業ではオンライン授業。保健室サポート。抗生物質などの医療品寄贈などが紹介されていました。

そう、私たちにはラマ理事を中心とする現地事務所があり常に連絡が取れるのです。もう一度寄付を募り教育関連備品を送れるように考えてみませんか。

威勢の良いことを書きましたが、気力を失いがちな私たちはつい否定がちに考えてしまいがちです。でも、一つでも良いから何か花を咲かせましょう。

思い出せばネパールの内乱状態の時にも出かけ「のんき」に教育支援を行って来ました。銃口の向けられた街道を元気に駆け抜けてきました。

コロナ禍にあってもゆっくりと、ささやかに、でも希望を持って教育支援を中心にやっていきたいものと願っています。

近くで見れば様々なことに患いがちですが、遠くから見れば、私たちの活動はそれなりの花を咲かせていたのだと思います。

老年のひと頑張り、日本の若者たちにも見せたいものです。もう一度集まり、手と手を合わせ勇気、やる気をだしてみよう。

3回目のワクチン接種を終え少し前向きな気持ちで書かせていただきました。



すっかりお会いできる機会を失い誠に残念に思いながらこの挨拶文を書かせていただいています。創立以来 25 年。令和に入ってこれからと言う時にコロナが拡大、且つロシア・ウクライナの戦争でさらに落ち込んでいます。

何か出来ないのかと言いつつ3度目のワクチンを打ちました。

でも、会員の皆さまはじめ多くの子供たちに関心を寄せる皆さまは、この情勢下でも、ネパールだけでなくウクライナにも心を寄せて子供たちの安全・健康を願いつつ、健やかな日々をお過ごしのことと拝察いたします。

身体の動きは少なくなりましたが、心は元気に世界中を飛び回る日々のはず。心の連帯を強めていきましょう。

そして更にネパールの、しかもお釈迦様の生誕地ルンビニ聖地公園周辺に教育支援をさせて頂いた日々をもつ私共は幸せであると改めて自信を持ち直しましょう。

この活動を通じて色々な人々と出会えました。これも生きる誇りを与えてくれたと考えます。



カトマンズのパドマ・カニヤ女子校の皆さんのステキな笑顔の写真が届きました。

2022年4月10日

カトマンズのパドマ・カニヤ女子校に下記の教育・保健用品を届けました。

1. 国際ソロプチミスト町田一さつきからの寄附によりノート 5100 冊、筆記用具 2000 本。
2. NPO 法人 ネパール・ミカの会から 3 回目のサージカルマスク 6,000 枚。コロナ感染防止・市内の大気汚染に効果的です。
今回の支援活動は現地理事のルヌブ・ラマ氏の協力で行われました。



Zoom は PC やスマートフォンなどさまざまなデバイスから誰でも簡単にビデオ通話ができる Web 会議ツールです。

コロナ禍で注目されているツールです。当会でも昨年 5 月 23 日・8 月 22 日にテスト運用をいたしました。スマホや PC から参加できるかどうかの試運転。画像や音声のチェックも行いました。一時流行った WEB 飲みのような交流を中心に慣れて頂きネパールにいるラマさんなどの話を直接聞いて、会話をさせていただきたいと思いません。順次用意しますのでご期待ください。LINE のミカの会にもぜひ。



「保育園の異文化交流会に参加して」

松浦 陽子

昨年の12月17日の午前10時前、かねてより依頼があった「つながりづくり保育園原町田αβ・forSTAFF」さんを、ミカの会のメンバー4人で訪問しました。テーマは「ネパールとの異文化交流」。

保育園でもまだまだ幼い2歳児さん達が主だと聞いてたので、どんな感じで交流をしたら良いのか見当がつかず、ちょっと不安でしたが、そこはさすがに日頃から幼児の指導に当たっておられるベテランの先生方が、私達を上手にリードしてプログラムが支障なく進められる様にサポートしてくれたので、正直、助かりました。

主任の先生が司会を担当して下さい、まずネパールの民族衣装を来た私達4人を紹介してくれたので、こちらも簡単な自己紹介をさせてもらいました。それからネパール語の挨拶、ナマステを教えたり、国旗を見せて加藤副理事長が話したりした後、和田さんが民族衣装のサリーの着方の簡単な説明をしてくれて、園児達にサリーにじかに触れてもらったり、身体に巻き付けて試してもらったりと、ワイワイ賑やかなひと時を過ごしました。

そして何と言っても子ども達が一番興味を持つのは音の出る楽器と一緒に歌う音楽です。まず、持参したネパールの民族楽器マードルやティンシャ、シンギングボール、マニ車などを和田さんが一つ一つ丁寧に説明して、加藤副理事長もトランペットとユーフォニアムという大きな金管楽器を持って行ったのでその楽器の説明もしてもらった後、園児達に触れさせると、マードルを叩いたり、ティンシャを鳴らしたり、シンギングボールを叩いて共鳴する音を確かめたり、ラッパに触ったりとひとしきり、楽しそうに遊んでました。

その後、「さんば」という曲を加藤副理事長がユーフォニアムで演奏してくれたので、皆で一緒に歌いました。又、それから和田さんと加藤雅子さんがオカリナでネパールの民謡レッスンフィリリや童謡のふるさとを演奏してくれたので、私は曲に合わせて歌いました。

約1時間という限られた時間の中で、こちらも初めての幼児達との異文化交流会でしたが、2歳～3歳の時期は思考力が発達し会話もなめらかになってくる大事な時期だと聞きます。彼らの中に一つでもふたつでも、ネパールという異文化がきざまれたら嬉しいなあと思いつつ、皆さんにさよならしました。

異文化交流二回目は2月28日にこもれば堂から、つながりづくり保育園の姉妹園5園をリモートで繋いで行われました。

オミクロン株の影響で園児達との触れ合いが難しかったからです。ミカの会からは5人が参加しました。

「幼児達とリモートで繋いで果たして上手く伝わるのだろうか？」と緊張しましたが、今回も保育園の先生方のサポートにより、内容的には前回とほぼ同様なプログラムで進行しました。

ただ途中、音響や画像が園によっては乱れた場面もあったりして、うまく伝わってなかったかと不安に感じた部分もありましたが、何とか予定した内容を無事終了出来たので、皆でほっとしました。ただ、もし次に交流の機会があれば、やはり、園児達とじかに触れ合い、国旗にも楽器にも衣装にも、直接触ったり、叩いたり、着たり、一緒に歌ったり、お話もいっぱいしたいなあと思つづく感じました。



「2年ぶりの懇談会」

和田 泰子

コロナは緩やかな下降に入ったとはいえ、未だオミクロン株の心配が続いておりますが、皆さまお変わりなくお過ごしでしょうか？

コロナ禍で定例会や殆どのイベント等が中止になる中、定例理事会だけは何とか続けていましたが、昨年11月の理事会で、コロナが下火になっているこの時に、どうぞこのまま増えませぬようにと祈るような気持ちで懇談会を開くことを決めました。

12月12日、築田寺の大広間で、2年ぶりの懇談会が開催されました。消毒、食事以外時のマスクの着用、食べ物・飲み物は個人別に用意等の注意を払いながらでしたが、26名もの方々が参加されました。

11時から前段として和田の司会で一人ずつ自己紹介と近況をお話して頂きました。90歳を超える方も若い方もこの困難な状況を何とか元気で乗り越える工夫されていることや趣味などをお聞きし、励まされる思いでした。

和気あいあいと進む中、小田急デパートに注文しておいたお弁当を取りに行って下さった加藤副理事長他お二人が戻られ、参加者全員が揃った所で、加藤副理事長の司会で齋藤理事長の挨拶から懇談会は正式にスタートしました。

今回の懇談会では国際ソロプチミスト町田-さつき様からの寄付金贈呈式も行われました。ミカの会発足以来、本当に永い間ご支援頂きましたが、最後の寄付金30万円をこの日に頂きました。この寄付金はパドマカニャ校での女子教育のために使う目的で、すでにネパールに送金されました。これまでのご支援・ご協力に心からお礼申し上げます。

そのあと集合写真を撮り、昼食、懇談と続きました。ゴビンダさんからネパールのお話をお聞きし、皆さまとネパールの民謡レッスン・フィリリを歌いました。そのあと松浦理事の挨拶と“ふるさと”の合唱で締めくくり、皆さまの笑顔とともにお名残惜しく会は終了しました。コロナが速やかに終息し、またこのように集えますようお願いしてやみません。



「編集後記」

コロナウィルスの影響はいまだに影を落としています。総会を控えて資料作りを急いでおりますが事業報告するのが正直辛いです。日本国内の活動もネパールでの建設作業も進まずに、ただただ時間だけが過ぎ去っていきます。ウクライナへのソ連の侵攻は世界中を驚きと混乱に巻き込みました。ミャンマーも軍の横暴が収まりません。スリランカも経済的に破綻混乱状態です。ネパールも外貨不足が顕著になっています。日本では円安が加速しています。世界中が騒然としてしまった中で、私たちは何をしたら良いのか？何ができるのかを暗中模索している最中です。

昨年12月、国際ソロプチミスト町田-さつき様より寄付金をいただき、今回会報で報告のようにカトマンズの女子校約900名に学用品・マスクを届けることができました。国内でバザーなどが開催・参加出来ない中でとてもありがたいことです。

コロナ禍での渡航も徐々に緩和されておりますが、高齢者の多いミカの会はいまだ支援の旅も不安で実施できない状態です。初心を忘れることなく、ネパールの子供たちの笑顔に伝えるように、出来ることをわずかながらでも進めていこうではありませんか。現在、ミカの会の公式ラインを開設、23名が登録されています。少しでもコミュニケーションの手助けができればと思います。 S・k